



The Japanese Group Dynamics Association

<http://www.groupdynamics.gr.jp/>

第 65 号

(2024 年 8 月 9 日)

発行所： 広島大学 坂田桐子研究室

日本グループ・ダイナミックス学会

E-mail : sec-general@groupdynamics.gr.jp

発行人：坂田桐子

編集担当：藤村まこと

目次

日本グループ・ダイナミックス学会 第 70 回大会開催の挨拶	2
黒川正流先生を偲んで	4
国際化支援.....	6
国際化支援制度.....	6
AASP 年会費特別割引について.....	6
機関誌『実験社会心理学研究』について	7
実験社会心理学研究 2024 年度 64 巻 1 号 — 掲載論文.....	7
実験社会心理学研究 掲載予定論文.....	8
事務局からのお知らせとお願い.....	9
学会員と外部団体・個人とのコラボレーション支援助成.....	9
会員異動	9
グルダイ学会関係連絡先.....	11

大会準備委員会 委員長
石黒格 (立教大学)

本学会の、記念すべき第70回大会は、来る8/22、23に、立教大学新座キャンパスで開催されます。近年は、社会や政治の場で原因とプロセスに関する問が自生する機会が多いように思います。端的に言う「なんでこんなことに」「こんな状況でどうすれば」という絶望にも近い感覚が満ちています。思いつくままに暗い話題を列挙しても、covid-19のパンデミック、ロシアのウクライナ侵略、ガザでの虐殺、ナショナリズム／専制的国家主義の台頭、アテンション・エコノミーの浸食、気候危機、富の集中がありますし、国内でも民主的意思決定プロセスの軽視、人口減少、世代間対立、経済の停滞、相変わらずの差別と暴力があります（優生保護法が最高裁で違憲判決を受け、除斥期間の主張が退けられたのは、胸の空く思いではありましたが）。そうした状況下で、人々の反応や、その個人差・多様性をどのように理解すればいいのか、問題を解決することは不可能にしても、わずかばかりでも指針があればという思いは多くの人に共通するもののように思います。

そうした中でも、会員の皆様はそれぞれに自らの社会心理学的な問を掲げて研究に邁進していらっしゃると思います。このたび第70回大会の準備委員長を引き受けさせていただきましたが、幅広いテーマについての発表の申し込みをいただきました。皆様が成果を公表し、議論し合い、新たな問を見つける場として学会大会は機能しなくてはなりません。熱気のあふれる大会となるよう、精一杯の運営をさせていただければと思います。

すでにご存じのように、今大会では発表申し込み締め切りの延長の常態化という悪習を断ち切りました。そのためもあってか、ポスター・セッションを中心に発表数が大幅に減っております。予想以上に減りました。正直なところ収支的に大丈夫なのか……という動揺もありますが、幸い、大会の活気は発表数で決まるものではありません。大きめの教室が密集していることも活かして、今大会は並行セッションをおおよそ2つまでとし、1つのフロアですべての発表を見ることができるプログラムを編成することができました。並行セッションもテーマや方法論が重ならないように工夫しております。ポスター・セッションも、ひとつのセッションでの発表数を絞り、大いに議論できる環境を整えたつもりです。お楽しみいただければ幸いです。

さて、ここで宣伝を。

夏だから、というわけでもないのですが、本大会では準備委員会企画として「怪異」をテーマとしたシンポジウムを開催します。心理学者の仇敵とも言える超常現象のひとつである怪異ですが、近年は知覚現象や文化進化のモデルを用いてその成立や社会的機能を語る研究が盛んになっています。今回のシンポジウムではこうした研究を怪異研究の本場である民俗学と歴史学の研究者にご覧いただき、率直にご意見をいただく形式としました。心理学サイドからは須山巨基・佐藤浩輔両氏にご登壇いただき、民俗学より廣田龍平氏、歴史学より小山聡子氏をお招きしました。廣田・小山両氏にもご研究の発表をいただき、心理学者との2on2が繰り広げられます。

ご存じのように、民俗学も歴史学も、大理論は否定しませんが、より事例に則した考察を行う志向があります。たとえば近世以降に図像、語りとしての幽霊が女性に偏っていく事実は、普遍

的なモデルだけではなく、それよりもむしろ歴史の中での女性の社会的地位、社会的役割や、その歴史的变化から考察されます。こうした観察と考察を積み上げてきた民俗学、歴史学の専門家の目に、心理学的な怪異の理解モデルはどのように写るのでしょうか。心理学は「驚き」や「学び」を提供できるのでしょうか。スリリングなやりとりが繰り広げられることを企画者として大いに期待しております。

今回のテーマは、後回しにされがちな量的研究と質的研究との対話の試みでもあり、この議論がなされる場として、グループ・ダイナミクス学会以上の場はないと考えております。あらゆる社会的、政治的問題もまた固有の歴史を引きずっており、これらの問題の理解に、今回のシンポジウムは貢献するはずです。皆様にも、フロアから積極的に参加していただければと願っております。



黒川正流先生を偲んで

坂田桐子(広島大学)

2024年3月19日に、本学会名誉会員である黒川正流先生（広島大学名誉教授）がご逝去されました。黒川先生は、昭和12年4月1日鹿児島県でお生まれになり、九州大学大学院教育学研究科で三隅二不二先生に師事され、修了後は株式会社日本リサーチセンター調査部勤務、九州大学教育学部助手を経て昭和47年から広島大学に着任されました。私は黒川先生の指導学生の中で、最初に博士課程後期に進学した学生でした。

本学会では、平成2年度後期から平成10年度前期まで常任理事を4期に亘ってお務めになりました。黒川先生が本学会の運営に非常に尽力されていたのを記憶しています。ぐらだいニュースの初代編集者が黒川先生でした。平成4年に0号が発行されています（学会ウェブページから閲覧可能です）。当然、助手になったばかりの私も編集補助として加わり、校正、印刷、送付作業などをお手伝いした記憶があります。常々、「長老やベテランだけでなく、若手研究者にこそ学会運営に関心をもってもらいたい」と仰っており、グルダイ学会大会開催時に若手研究者の総会への参加率を高めるために「総会で昼食を提供する」という策を考案されたのも黒川先生だと伺っています。平成8年には大会委員長として学会大会も開催されました。

私が大学院生だった当時、黒川先生は海外の重要な書籍の翻訳に精力的に取り組まれており、平成4年から11年までの間に、A. Zander 著『集団を活かすーグループ・ダイナミックスの実践』、R. Brown 著『グループ・プロセス』及び『偏見の社会心理学』、H. H. Kelley 著『親密な二人についての社会心理学』及び『対人関係論』など、計7冊の翻訳書を出版されました。特に、Harold H. Kelley 教授の『対人関係論』については当時とても難解で、黒川先生をはじめ翻訳者全員苦しみつつ翻訳に取り組んでいました。アメリカ人研究者から「あれを日本語に翻訳するなんて凄いな。我々が英語で読んでもわからないのに」と言われた・・・と黒川先生が苦笑いしておられたことを記憶しています。

平成元年には、その Kelley 教授をお招きし、広島もみのき森林公園で4泊5日の通称「ケリー・セミナー」を主宰されました。午前・午後・夜と1日3セッションにレクリエーションも含めた非常に「濃い」研究会であり、日本全国から特に若手の研究者が数多く参加しました。当時、私は博士課程後期1年でしたが、この合宿形式のセミナーに参加させていただいたお陰で、全国の若手研究者と知り合うことができました。その他、広島実社心研合評会を提案されたり（月1回程度のペースで主に若手研究者中心で開催）、ミシガン大学での研究会に大学院生を連れて参加されるなど、ご自身の研究活動だけでなく、主に若手研究者同士の交流や研究活性化に資する取り組みを数多く行われました。もちろん、研究会や合評会の後は必ず「夜の部」があり、陽気なお酒を楽しみました。

黒川先生のご指導は非常に厳しく、遠慮なく学生（だけではなく教員も）を叱る方で、私自身も学部生の頃にはゼミで褒められた覚えが一切ありませんでした。今の若い方々からすれば信じられないかもしれませんが、黒川先生の研究室から学生を叱責する声が廊下中に響き渡ることは日常的な光景でした。特に私の場合は同じ研究室に「先輩」が存在せず、黒川先生のご指導を直

に受けて育ちましたので、大学院生時代から助手時代までは、「指導」というより、怒涛のようなスポ根的「研究者養成訓練」を受けた感があります。しかし、そうした厳しいご指導の一方、黒川先生は学生との懇親会が大好きで、お酒の席では決して怒ったりお説教したりすることはありませんでした。学生や若手研究者がどうやったら経済的な不安なく活躍できるか、いつも考えてくださっていました。定年退職前には随分穏やかになりましたし、いわゆる「カミナリ親父」的な厳しさの根底には思いやりや人情が常にあったため、広大をご退職後も、黒川先生を囲む懇親会は、有志によって度々開催されていました。

大学院生や助手の頃は「研究者養成訓練」が辛かったこともありましたが、今、改めて振り返れば、黒川先生のもとでなければ経験・習得できなかったと思われることが数多くあることに気づかされます。

黒川先生、本当にありがとうございました。どうかゆっくりとお休みください。



2017年に開催された「黒川先生を囲む会」での1ショット

国際化支援

常任理事（渉外担当）
石井敬子(名古屋大学)

国際学会発表支援・参加費支援制度

国際学会発表支援制度は、大学院生・若手の会員を対象に、日本国外で開催される国際学会での発表旅費の支援を毎年度行うものです。毎年7月末を応募締め切りとしています。申請締め切りの時点で発表予定の研究だけではなく、当該年度にすでに発表した研究も支援対象となります。また、他学会の支援制度との重複受給も可能です。

今年度の募集は終了しました。採択者につきましては、今年度の年次大会の総会において発表する予定です。詳細については学会ホームページをご参照いただければ幸いです。状況に応じて柔軟に制度を運用していきたいと考えていますので、来年のご応募をお待ちしています。

学会 HP : <http://www.groupdynamics.gr.jp/support.html>

国際化支援制度

国際化支援制度は、本学会会員の研究の国際化を支援するため、会員が自らの研究成果を英文誌に投稿する際に英文校閲代金の一部を補助するものです。年齢制限はありません。ぜひご活用ください。

学会 HP : http://www.groupdynamics.gr.jp/support_international.html

AASP 年会費特別割引について

日本グループ・ダイナミクス学会（JGDA）の会員を対象に、アジア社会心理学会（The Asian Association of Social Psychology; AASP）の年会費が割引されます。昨年度と同様、通常であれば「45 オーストラリアドル（1 年間）」または「85 オーストラリアドル（2 年間）」ですが、JGDA 会員であれば、

- ・「35 オーストラリアドル／1 年間（2025 年度）」
- ・「60 オーストラリアドル／2 年間（2025 年度・2026 年度）」

になります。

レートの変換や申し込みフォームの設定の準備ができましたら、グルダイフラッシュを通じてご連絡します。例年通り、10 月末までの申し込みの予定です。なお、2025 年 7 月 10 日～12 日には AASP の大会がマレーシア（モナッシュ大学）で開催予定です。

編集委員長 橋本 剛 (静岡大学)

副編集委員長 中島健一郎 (広島大学)

実験社会心理学研究第 64 巻 1 号は原著論文が 3 本、Short Note が 1 本、書評が 2 本から構成されます。最近の実験社会心理学研究のアピールポイントである、Short Note や書評が含まれておりますし、原著論文のそれぞれを含めて、読者のみなさまの知的好奇心をくすぐる内容になっているのではないかと自負しております。原著論文・資料論文ともに英語での投稿も可能ですし、今年度からプレプリント論文の投稿も受け付けております。これからも「何が会員のみなさまのためになるのか」という点を大事にしながら、実験社会心理学研究の刊行とアップデートをすすめていきたいと思っております。

これまでのぐるだいニュースの繰り返しになりますが、編集委員会では「論文を評価するのは読者であり、その機会を作るのが仕事」という精神のもとで作業を進めております。これが可能なのは、ひとえに論文を投稿してくださっている会員のみなさまと、審査に協力してくださっている査読者のみなさまのおかげです。心よりお礼申し上げます。今後も読者のみなさまの幅広いニーズに応えることを目指し、多くの論文をお届けできるよう努めていきます。これからも実験社会心理学研究をよろしくお願いいたします。

実験社会心理学研究 2024 年度 64 巻 1 号 — 掲載論文

(2024 年 8 月発行／早期公開済み)

原著論文

- 湯山 祥・向井智哉・松木祐馬・綿村英一郎
特定少年実名報道への支持と子どもに対する現代的偏見－実名報道目的の媒介効果－
- 浅野龍平・浦 光博
色および清潔さの感覚が社会的問題に対する道徳的判断へ及ぼす影響
- 湯山 祥・向井智哉
加害者との対話に対する被害者の（不）満足表明と加害者に求められる罰の関連
－一般市民の量刑判断過程の検討－

Short Note

- Yuho Shimizu
Does ageism reduction intervention lower the state self-esteem of younger people?
A pre-registered study

書評

- 柿本敏克
ジョン・T. ジョスト（著）、北村英哉・池上知子・沼崎 誠（監訳）「システム正当化理論」（2022 年、ちとせプレス）
- 宮島 健
岩谷舟真・正木郁太郎・村本由紀子（著）「多元的無知：不人気な規範の維持メカニズム」（2023 年、東京大学出版会）

実験社会心理学研究 掲載予定論文

2024 年 8 月 7 日時点で掲載決定となっている論文は以下の通りです。いずれも早期公開されております。

原著論文

- 辻本 昌弘
事例研究における事例の選択について
- 湯山 祥・松木 祐馬・向井 智哉・貞村 真宏・綿村 英一郎
実名報道された特定少年に対する市民の受容の規定因
—実名報道がもたらすネガティブ効果の容認の観点から—

Short Note

- Akiko Matsuo, Tomoya Mukai & Yuri Tanaka
Revisiting the amplification effect of induced disgust on moral judgments:
An investigation of Japanese subjects
- Kaede Matsumura & Hirofumi Hashimoto
What kind of small-group discussion would be useful for handling hidden profiles?

事務局からのお知らせとお願い

事務局長
相馬敏彦(広島大学)

学会員と外部団体・個人とのコラボレーション支援助成

本学会ではこれまで、コラボ・リクエストとして、ニーズをもつ組織・団体・個人から、シーズをもっている学会員へのアクセスの機会を確保すべく、学会大会において交流の場を提供してきました。この取り組みが一定の成果をあげてきたことは、既に 2022 年度や 2023 年度の学会シンポでも議論された通りです。ただし、そこでも話題となったように、より間口の広いコラボを実現するためには、学会大会の場に留まらず、学会員が自ら、外部の営利団体や非営利団体、あるいは個人とのコラボレーションの場に出向き、その機会を増やすことも有効でしょう。

そこで、学会員のコラボの機会拡張を支援するために、外部組織・団体・個人と関わるための費用を助成します。新たな連携を開始するため必要経費を助成することで、シーズをもつ学会員からニーズをもつ組織や団体、個人へのアクセスの機会拡張を促します。

少しでも関心をもった方は、まずは、学会サイトの「支援制度」から[「コラボレーション支援助成」](#)をご覧ください。研究そのものへの助成ではなく、コラボ支援のための助成ですので、広くご応募いただけたと思います（条件は上記のサイトでご確認ください）。

募集締め切りは、2024 年 9 月 6 日で、助成対象となる期間は、助成開始の通知（2024 年 9 月 20 日の予定）から 2025 年 3 月までです。ご応募お待ちしております。

会員異動

(2023 年 5 月 20 日～2024 年 8 月 5 日)

新入会員：41 名

■正会員（一般）

池田 鮎美	岡田 夏美	小野 由莉花	唐澤 真弓	工藤 泰幸
米谷 充史	中井 彩香	中嶋 恵美子	八田 紘和	藤田 政博
三浦 大志	李 楊			

■正会員（学生）

相田 直樹	浅野 龍平	足立 吉規	井上 佳奈	岩田 和也
上田 寛	内山 志保	大西 祐輔	小川 詩音	奥山 智天
亀岡 優輔	顔 世之	木村 映里	日下部 春野	黄 瑤
小澤 るの	小林 右京	小椋 真呼	崔 邱好	坂本 遼太郎

佐藤 羽衣	塩治 玲奈	志水 勇之進	朱 一鳴	杉本 凜
高嶋 魁人	張 梓源	永延 佳那子	根岸 姫奈	原田 瑞穂
松原 旭飛	宮本 健利	森 隆太郎	山下 美月	李 律理
劉 泓謙	若井 大成	渡邊 裕季乃		

■賛助会員

SaaS 事業部 相馬 和平

退会会員：35 名

■名誉会員

狩野 素朗	黒川 正流	篠原 しのぶ
-------	-------	--------

■正会員（一般）

有馬 淑子	伊藤 哲司	今井 芳昭	王 戈	大澤 裕美佳
小野寺 孝義	川西 千弘	木村 玲欧	熊谷 智博	古城 和敬
佐藤 寛之	佐山 公一	寺口 司	永野 光朗	Park Joonha
原田 春美	廣兼 孝信	福井 宏和	福岡 欣治	松田 幸弘
安嶋 明	矢野 裕之			

■正会員（学生）

内 水吟	川村 樹	倉田 和佳	小泉 喜之介	張 芸誼
服部 典利子	福本 都	法 卉	李 韻涵	隆 重

グルダイ学会関係連絡先

本学会では、事務支局を中西印刷株式会社に開設しております。入退会、住所・所属等の変更、会費納入、機関誌等の未着・メールマガジンなどの配信先の登録・変更・停止等の連絡先として、事務支局である中西印刷株式会社までご連絡ください。

また、論文投稿先・審査書類送付先も中西印刷株式会社となっております。詳細は下記をご覧ください。各種お問い合わせの具体的な連絡先は以下の通りです。

事務支局【入退会、住所・所属等変更、その他お問い合わせ先】

日本グループ・ダイナミックス学会 事務支局
〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
中西印刷 (株) 学会フォーラム内
TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662
E-mail : jgda@nacos.com

学会運営・対外業務関連

日本グループ・ダイナミックス学会本部事務局
日本グループ・ダイナミックス学会本部事務局
〒 730-0053 広島県広島市中区東千田町 1-1-89
広島大学大学院人間社会科学研究科 相馬敏彦 研究室
TEL : 082-542-7076
E-mail : sec-general@groupdynamics.gr.jp

投稿論文・学会誌編集関連【論文投稿先・審査書類送付先】

日本グループ・ダイナミックス学会 編集事務局
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
中西印刷 (株) 営業部編集校正課内
TEL : 075-441-3155 FAX : 075-417-2050
E-mail : jjesp-hen@groupdynamics.gr.jp

広報関連【ぐるだいの編集・記事の投稿、メールマガジンへのニュース記事投稿など】

〒811-1313 福岡市南区日佐 3-42-1
福岡女学院大学 藤村まこと 研究室 (広報担当 常任理事)
E-mail : office@groupdynamics.gr.jp

心 理 学 評 論

Vol. 67 (2024) の発行予定

- No. 1 2024 年 7 月 特集：ポストコロナ時代の乳幼児研究に向けて
No. 2 2024 年 9 月 一般論文
No. 3 2024 年 11 月 特集：心理学における健康生成論—今後の展望—
No. 4 2025 年 2 月 一般論文
年間 4 冊発行し、購読料は個人予約に限り 8,000 円、機関の場合は 15,000 円です。

Vol. 66, No. 2 (2023 年 12 月発行)

論 文

- 小林勇輝・北岡明佳 明度錯視を説明するモデルと今後の展開
新井 雅 児童生徒の資質・能力の育成や支援に関するスクールカウンセリングの課題と可能性—社会情動的スキルに着目して—
小林敬一 教授による学習の役割仮説
石田 海・入戸野宏 音楽における調性的期待：事象関連電位からわかること
張 馨月・浅野倫子 物語映画への没入体験の認知プロセス

Vol. 66, No. 3 (2024 年 1 月発行)

特集：Developmental Cybernetics：子どもとロボットのインタラクションから子どもとロボットの関係性へ
編集：板倉昭二

- 板倉昭二 特集号「Developmental Cybernetics: 子どもとロボットのインタラクションから子どもとロボットの関係性へ」に寄せて
吉川雄一郎 人の発達・人間関係構築を支える対話型ロボットの可能性
Federico Manzi 子どもとロボットのインタラクションの理解：Developmental Cybernetics からの展望
小嶋秀樹 関係性をアフォードするロボット—自閉症児および定型発達児とのインタラクションからその可能性を探る—
神田崇行 社会的ロボットのモラルインタラクション
野村達也 ロボットに対するいじめと依存：子どもとロボットの関係性の負の側面について
加根魯絢子 ロボットと学ぶ：言語教育から見るソーシャルロボットの可能性
塩見昌裕 複数台で連携して子どもたちの学びを支援するロボット技術
大神田麻子 ロボット認識におけるアニミズム

Vol. 66, No. 4 (2024 年 3 月発行)

論 文

- 二瓶正登・松本 昇・佐藤友哉 制止学習アプローチに対する古典的条件づけ研究からの批判的検討
石川萌子・鹿子木康弘 乳幼児期における粘り強さ—問題点と今後の課題—
特集：Developmental Cybernetics：子どもとロボットのインタラクションから子どもとロボットの関係性へ (2)
編集：板倉昭二
牧 敦 子どもと共生するロボット開発を目指して～‘脳を育む’ための‘脳を創る’
板倉昭二 子どもとロボットの近未来—Developmental Cybernetics (コメント論文)

心 理 学 評 論 刊 行 会

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学文学部心理学研究室内

TEL: 075-753-2753 FAX: 075-753-2835

E-mail: hyoron@psy.bun.kyoto-u.ac.jp

<https://www.sjpr.jp/>

郵便振替：01080-7-1208

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

<https://www.kitaohji.com> (価格税込)

〈よそおい〉の心理学

—サバイブ技法としての身体装飾— 荒川 歩, 鈴木公啓, 木戸彩恵編著 A5・280頁・定価3740円 なぜ、私たちは今日も〈よそおい〉続けるのか？ 普段の役割を降りるツール、自他の関係調整ツール、ジェンダーワークといった心理的社会的機能の観点から、衣服、化粧、ピアッシングなどの身体装飾の行為を考察。

装いの心理学

—整え飾るこころと行動— 鈴木公啓編著 A5・304頁・定価2970円 身体装飾・変工の心理に関する入門書。第1部では、化粧、衣服、ピアス、いれずみ、美容整形、痩身等の装いがどのような意味・意義を有するのか、バランスよく解説。第2部では、コスプレや化粧療法等、関連テーマを紹介。

サッカー選手・指導者のためのメンタルガイド

松山博明編著 堀野博幸, 夏原隆之, 永野智久, 松竹貴大著 四六・288頁・定価2860円 サッカーの指導者と選手に向けて、モチベーションやピークパフォーマンスを高める方法、意思決定能力を養うトレーニング法、怪我やバーンアウトへの心理的対処法、チームビルディングの考え方など、スポーツ科学に基づく知見をわかりやすく紹介。

コーチング心理学ガイドブック

S. オリオーダン, S. パーマー編著 徳吉陽河監訳 A5・336頁・定価4620円 心理学に基づくコーチングの基礎や研究等を紹介。信頼関係の築き方やアセスメント等の主要トピックから、会社やスポーツなどでの応用、コーチング心理学の限界と未来まで包括的に解説。個人と組織の持続的成長やウェルビーイング向上に貢献したい実践家・研究者必読の書。

〈生活—文脈〉理解のすすめ

—他者と生きる日常生活に向けて— 宮内 洋, 松宮朝, 新藤 慶, 打越正行著 四六・208頁・定価2970円 生身の身体を伴った、生活する人間を、同じく、生活する人間が理解するとはどういうことか？ 乳幼児期の食（共食の体験）、青年期の労働（沖縄のヤンキー）、成人期の政治行動（市町村合併）、老年期の社会関係（孤独・孤立）をとおして考える。

体験と経験のフィールドワーク

宮内 洋著 A5・160頁・定価2420円 フィールドでの人間関係や調査者としての苦悩、フィールドワーク上のトラブルといった従来語られなかったセンシティブな問題を抽出し、真正面から向き合った待望の入門書。心理学、社会学、教育学、民俗学、社会福祉学等の質的調査、フィールドワークに向かう人へ。

感情制御ハンドブック

—基礎から応用そして実践へ— 有光興記監修 飯田沙依亜, 榊原良太, 手塚洋介編著 A5上製・432頁・定価6160円 本邦で展開されてきた多彩な感情制御研究を一望できる書。基礎理論に始まり、社会・人格・認知・発達・臨床・教育、さらには経済・司法・労働までの各分野における最新知見を8部31章21トピックで紹介。

未来思考の心理学

—予測・計画・達成する心のメカニズム— G. エッティンゲンほか編 後藤崇志, 日道俊之, 小宮あすか, 楠見 孝監訳 A5上製・720頁・定価11000円 目標実現のための心の仕組みを人に固有の「将来を模索し判断する力」を切り口に解説。認知、社会、教育、健康等の分野にも展開。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ **心理学と仕事** (全20巻) **完結！** シリーズ 監修 太田信夫

●A5判・148～232頁・定価2200～2530円

- | | | | | |
|-------------|------------|------------|-------------|----------------|
| 1 感覚・知覚心理学 | 2 神経・生理心理学 | 3 認知心理学 | 4 学習心理学 | 5 発達心理学 |
| 6 高齢者心理学 | 7 教育・学校心理学 | 8 臨床心理学 | 9 知能・性格心理学 | 10 社会心理学 |
| 11 産業・組織心理学 | 12 健康心理学 | 13 スポーツ心理学 | 14 福祉心理学 | 15 障害者心理学 |
| 16 司法・犯罪心理学 | 17 環境心理学 | 18 交通心理学 | 19 音響・音楽心理学 | 20 ICT・情報行動心理学 |

すいすい学べる 認知行動療法

―行動療法の基本と認知療法、マインドフルネス―

松野航太・嶋大樹・原真太郎 著 2530円

やさしく学ぶ教育心理学

―人と人とのつながりを求めて―

栗川直子・浜崎隆司 編著

人と人との関係を重視した教科書。理論編と実践編の二部構成。 2530円

グローバル時代の教育相談

―多様性の中で生きる子どもと教師―

大家まゆみ・稲垣勉 編

多文化共生社会における多様性を尊重する教育相談とは？ 2530円

アイデアをもたらず思考

―創造的認知を新製品・サービス開発へ応用する―

磯野誠・高橋佳代・島田善道 著

効果的にアイデアを創出する方法をインタビュ―や実験から明らかにする。 3300円

やさしく学べる 心理統計法入門

―「再増補版」―

―ここでのデータ理解への扉その3―

鈴木公啓 著

基礎が身につく好評テキスト。 2970円

コミュニケーション・ デザインのこころ戦略

―対人コミュニケーションの最適化―

大坊郁夫 編

相手を知るための心理学。 3520円

ともに学ぶ 薬学の心理学

有田悦子・吉永真理 著

患者心理・服薬心理やコミュニケーションなどの基礎知識を学ぶ。 2200円

保育のためのやさしい 教育心理学

高村和代・安藤史高・小平英志 著

子どもの見方を身につけるために、教育心理学は役に立つ！ 2090円

発達の理論

―発達の多様性の理解と支援に向けて―

小山正 著

人間発達の多様性に着目。理論を発達支援の実践につなげることをめざす。 2750円

個人と組織のための 男性育休

―働く父の心理と企業の支援―

尾野裕美 著

調査から提言を行う。 3300円

恋愛はどこまで 科学でできるのか

―恋の不思議に迫る9つのアプローチ―

斉藤慎一 著

恋愛に関する重要研究を解説。 2420円

コミュニケーション の社会心理学

―伝える・関わる・動かす―

岡本真一郎 編

最先端の研究を幅広く解説。 3520円

社会性の発達心理学

長谷川真里・佐久間路子・林創 編著

重要テーマを第一線の研究者が解説。基本を学びたい読者にも、深く知りたい読者にも有用なアドバンステキスト。 2860円

友人グループと 学校適応の心理学

―中学生における「スクールカースト」という現象に注目して―

水野君平 著

5500円

異文化間ソーシャル スキル研究の最前線

―国際化時代に求められる対人関係技能とは―

田中共子 編

ホスト・ゲストの両面から調査。 5940円

地域からみる女性の ライフ・キャリア

―主体的に働き方・生き方を選択できる社会の実現のために―

小倉祥子 著

全国調査から分析する。 3080円

関係の世界へ

―危機に瀕する私たちが生きのびる方法―

ケネス・J・ガーゲン 著

東村知子・鮫島輝美・久保田賢一 訳

一番やさしい社会構成主義入門。 2420円

新版暮らしの中の 社会心理学

安藤香織・杉浦淳吉 編著

身近なトピックから基礎知識を楽しく解説する好評テキストを刷新。 2530円

チームダイナミックス の行動科学

―組織の生産性・安全性・創造性を高める鍵はどこにあるのか―

山口裕幸 編著

3630円

認知行動療法の ストラテジー

学校心理学プラクティス②

―行動修正法・行動形成法・認知再構成法・おまじない法―

中村恵子 著

2640円

精神障がいのある人を 排除する社会でよいのか

―国際比較調査からみる人間の価値―

樋口麻里 著

国際比較調査から提言。 6600円

金融行動の心理学

―金融心理尺度の開発と応用―

佐々木美加 著

金融に対する意思決定はどのような心理プロセスで行われるか。 2200円

司法心理臨床実践

心の専門家養成講座⑩

河野莊子 編

警察、少年鑑別所、家庭裁判所、刑務所などでの有効な心理臨床とは。 3520円

完全版インターン シップの教科書

―自分のチカラを見つけた、試したい、伸ばしたい―

松高政 編著

新しいインターンシップに対応。 2200円